

# 杜の建築 未来の建築

2030年の日本とはどのような社会になっているのでしょうか。「2030年の建築」を考えるには不可欠なことです。そこで私は、各省庁や研究機関の予測を参照しました。

**人口問題** 1億1000万人程度まで減少。

**少子高齢問題** 2020年時点で高齢化率は30%に達し出生者数は75万人程度と見られるため、2030年時点ではさらに数値が悪化すると見られる。

**家族構成の変化** 男性の生涯未婚率は30% 女性の生涯未婚率は20%を超えると見られる。一人暮らしは男女合わせて40%に迫る。

**労働人口** 950万人程度まで減少

ただし、新資源の発見や新技術の開発、ある程度の海外資本の投入等の要因が加われば当然 予測は好転し、世界恐慌や紛争等が起これば予測はさらに悪化すると思われまます。そのため今回は出来る限り「明るい日本」を予測し、明るい世の中を実現する礎となり、かつ長期的に活用できる建築を提案します。

## 予測

人口は現在(2012年)を維持する。外国人の帰化等により既婚率、出生率等は現状を維持ないし微増するが、高齢化率が維持されるため人口はさほど変化はない。

新技術等の開発により、仕事スタイルが変化。勤務時間より家族や自分の時間を重要視するようになる。

**自然との調和** そんな日本に必要とされる建築の条件とは、都市の周りに森があるなどと言う消極的なものではなく、都市と森が一体になって存在する。今後の自然環境に対しての配慮をする

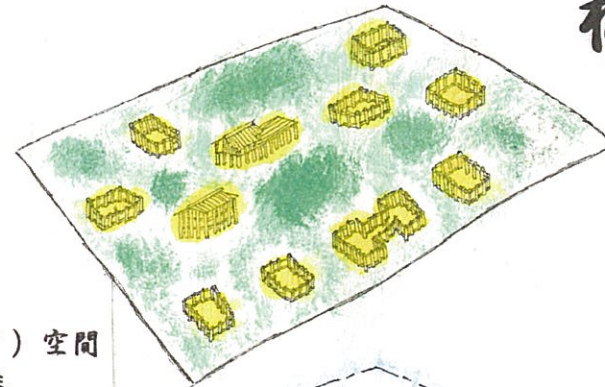
**コンパクトさ** 平地の少ない日本、特に都市部では土地はとて希少である。ゆえに公園、商業ビル、住宅の異なる3つ建物をそれぞれ「層」として捉え、重ね合わせる事によってコンパクトな都市を実現する。

**人とのつながりをつくる** 集合住宅とすることにより半ば強制的に他者とのつながりが生まれる。

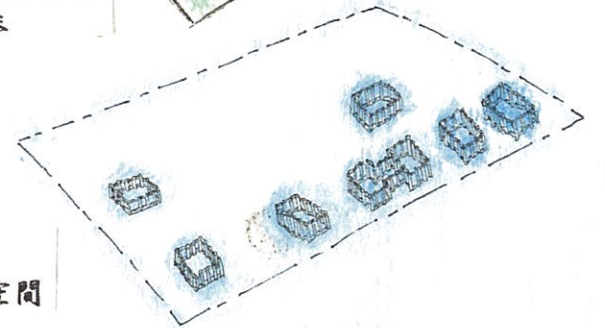
今回提案した建築はデザインを古代における高層建築たる寺、中近世における高層建築、城郭より模倣。建物との間を十分に取ったため小規模ながら森を創ることができ、また多数の層を設けたため、小スカタビで相当の住人や企業を収容するスペースが生まれる。明るい日本はこの設計により実現できると考えられます。



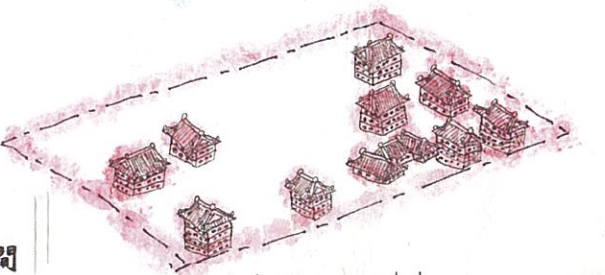
## 概念図



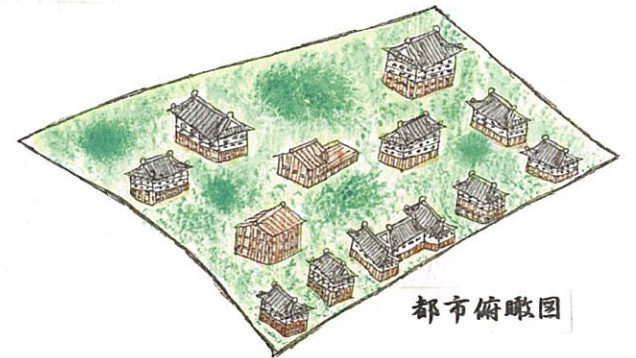
第一層  
公共的(ピロティ)空間  
および森



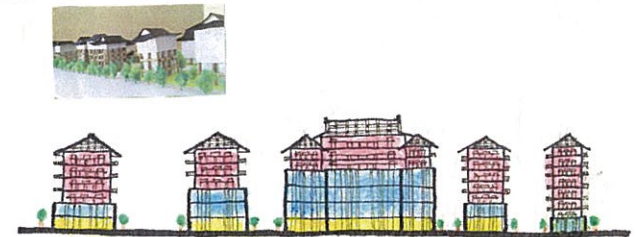
第二層  
商業空間



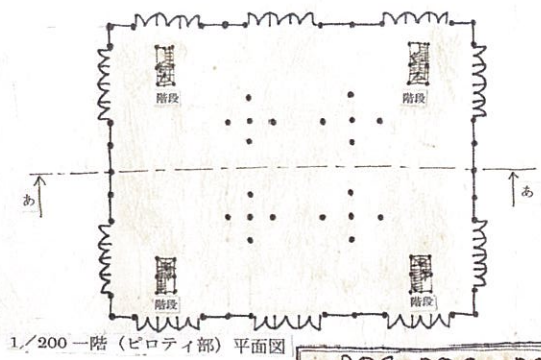
第三層  
住空間



都市俯瞰図

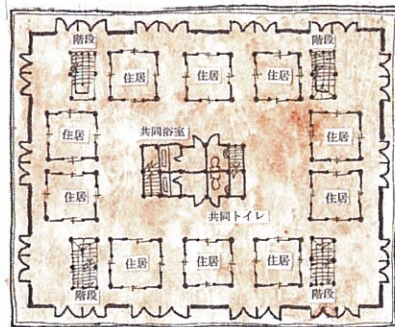


都市空間断面図



1/200 一階(ピロティ部)平面図

建物(都市)の第一層目のピロティ部は内部をイベントスペースとして活用。場合によっては植物園や水族館としての活用も可能。ピロティ部のみで構成された学習施設も多数建設します。同一の図面は、第二層目の商業スペースとして活用する。柱以外の間取りは各テナントに一任します。



1/200 二階(住居部・第一層)平面図

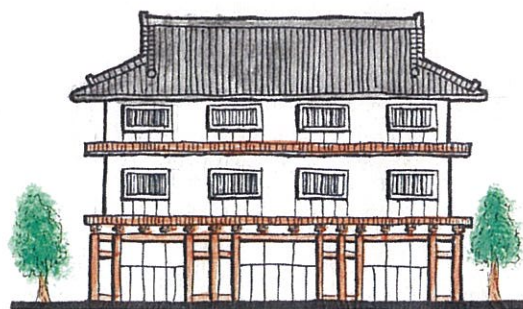


1/200 二階(住居部・第二層)平面図

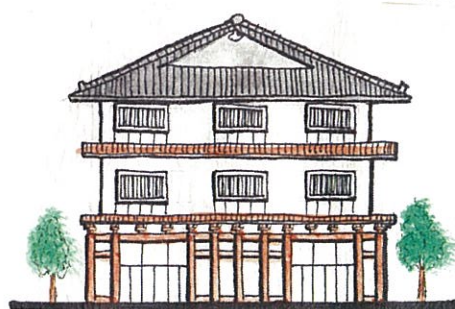


住居部内部スケッチ

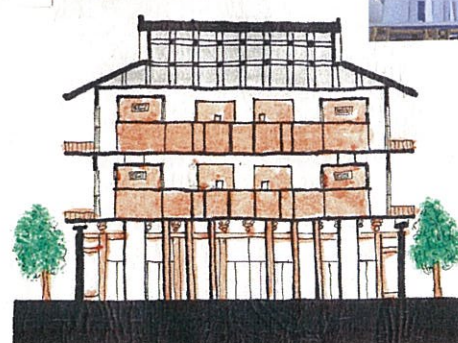
建物(都市)の第三層、住居部は一つの階を二層に分け16戸の住居(8畳一間)を設けます。水回りはすべて共同としたため、「一人て孤立」する事はまず考えられません。今回の住居部の提案は主に単身者向けの設計であり、既婚者向け、高齢者向け等の設計を発展させることも十分視野に入れています。



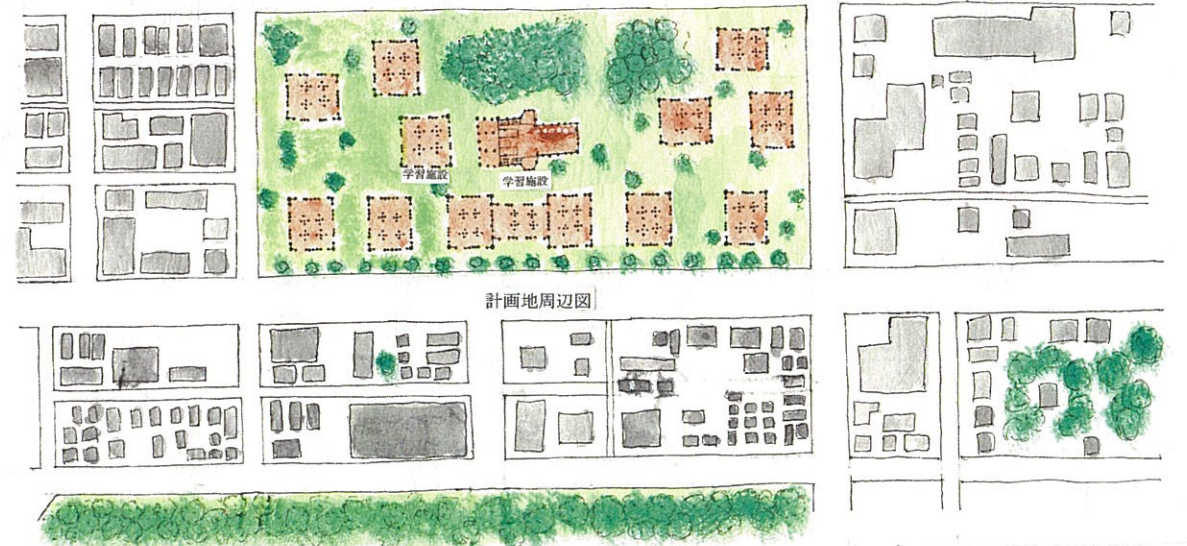
1/200 平側立面図



1/200 妻側立面図



1/200 あーあ断面図



計画地周辺図